

気液固分散工学ニュースレター (第5号)

2011年5月30日

【分科会代表より】

2011年3月11日に起こりました東日本大震災により被害を受けられました本分科会会員の皆様およびご親族ご関係者様に心よりお見舞い申し上げます。

3月22-24日に東京農工大学で予定されておりました化学工学会第76年会も中止となりご発表を用意されておられた皆様には貴重な情報交換の場を失うことになりました。本分科会の総会と気液固分散工学サロンも3月22日に企画されておりましたが、総会は幹事会によるメール審議とさせていただき、サロンにつきましては残念ながら流会とさせていただくことになりました。楽しみにしておられた皆様に謹んでお詫び申し上げます。

しかしながら2011年9月14-16日には化学工学会第43回秋季大会で本分科会がオーガナイザーを務め「気泡・液滴・微粒子分散工学2011」シンポジウムを開催する運びとなり、気液固分散工学サロンも開催する予定です。ぜひ多数のご参加ご聴講をお待ちしております。さらに2011年10月4-7日には本分科会(部会)が主催となり1st Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering (MMPE) が金沢にて開催されます。ドイツをはじめ海外からの多数の参加者を集め実り多い国際学会となることを期待しています。

以上のように日本にとってはたいへん苦難の大きな年となっておりますが、本分科会よりできるだけ多くの明るい話題を提供していきたいと思っておりますのでぜひ今後とも本分科会の活動にご関心およびご協力をよろしくお願いいたします。

(代表・寺坂宏一)

【第43回秋季大会シンポジウムについて】

2011年9月14-16日に名古屋工業大学にて化学工学会第43回秋季大会が開催されます。本分科会では昨年度に引き続き「気泡・液滴・微粒子分散工学2011 (S-40)」と題したシンポジウムを企画しています。S-40シンポジウムには、28件の講演申込みがあり、初日から二日目の午前中にかけて一般講演ならびに展望講演が予定されています。展望講演は「マイクロカプセル製造技術とその数値シミュレーション」と題して小生よりお話をさせていただきます。なお、このシンポジウムは粒子・流体プロセス部会プレゼンテーション賞および動画賞の対象となっております。分科会会員の皆様におかれましては、是非ご参加いただき、分散工学の諸テーマについて活発な討論をよろしくお願いいたします。

(<http://www3.scej.org/meeting/43f/submit/S-40.html>)

(副代表・本間俊司)

【気泡塔研究史の発刊について】

現在、印刷に向けて最終の編集作業中です。今年度中には皆様のお手元にお届けできると思います(会員は無料配布)。どうぞお楽しみにお待ちください。

(気泡塔研究史編集WG主査・室山勝彦、
副代表・本間俊司)

【MMPEについて】

MMPE (2011.10.4-7、金沢市) へは 90 件以上の Abstract を投稿頂きました(日本 61 件、ドイツ 27 件、アメリカ 3 件、韓国 2 件、台湾 1 件)。ご投稿頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。MMPE では、参加者間の討論を充実させるために、口頭発表を 1 会場、2 日間で行います。神戸大学の富山明男教授、TU Braunschweig の Schumpe 教授をはじめ 3 件 (1 件は交渉中) の特別講演をお願いするとともに、21 件を Full-oral、71 件を Poster (5 min Oral 付き) として受理しました。7/20 までに Full-length 論文を投稿して頂く予定です。また、MMPE の特色である国際共同研究の提案、マッチングについては、5 月末までに投稿された提案書を Scientific committee に審査して頂き、採択された提案について、研究費獲得のための申請を行う予定です。MMPE のスケジュール、プログラム等の情報は今後 HP 等を通じてお知らせする予定です。実行委員一丸となって MMPE 開催に向けて準備を進めております。皆様より一層のご支援とご協力をよろしく申し上げます。

(<http://www.mmpe.jp/>)

(MMPE実行委員長 工学院大学 上山 惟一、

MMPE Secretary 山口大学 吉本 誠)

【本分科会協賛行事】

<分離技術会年会2011>

分離技術会年会2011は平成23年6月3-4日に明治大学生田校舎において開催されます。分科会に関連する発表はS-3のガス吸収のセッションで行われ、基調講演1件(静岡大学・齊藤隆之先生)、一般講演5件、ポスター発表19件が予定されています。奮ってご参加ください。

(<http://www.sspej.gr.jp/nenkaiippansannka.html>)

(埼玉大学・本間)

<日本混相流学会年会講演会2011>

2011年8月6-8日に京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスにて、日本混相流学会年会が開催されます。分科会に関連するシンポジウムは以下の通りです。「OS-3 物質

輸送と水処理（オーガナイザー：土屋活美先生）、「OS-10 粒子系混相流および粒状体挙動のモデリングとシミュレーション」、「OS-13 マイクロ・ナノバブルの科学と技術的展開（オーガナイザー：寺坂宏一先生）」の他にも気泡・液滴・微粒子分散に関連する講演が多数ありますので是非ご参加ください。なお、詳細は以下のホームページをご参照ください。

<http://www.jsmf.gr.jp/nenkai/index.html>

（日本混相流学会混相流技術リエゾン専門委員・本間俊司）

【今後開催される本分科会に関係の深い国際学会】

<第9回分離技術国際会議（ICSST11）>

本国際会議は日本と韓国の分離技術に関する研究者が、相互の研究の発展と交流を深めることを目的として、日本側は分離技術会、韓国側が韓国化学工学会の共催で1987年より実施されてきました。前回は軽井沢での開催でしたが、今回は韓国済州島グランドホテルにて2011年11月3-5日に開催されます。本分科会に関連するセッションはDistillation/Absorptionで、セッションオーガナイザーを神奈川工科大の小島博光先生、静岡大学の齊藤隆之先生、日本リファインの坂東芳行氏が務めます。Abstractおよび論文提出の締切はそれぞれ6月末日と8月末日になります。奮ってご参加ください。

[\(http://www.sspej.gr.jp/\)](http://www.sspej.gr.jp/)

（埼玉大学・本間）

<日米韓機械学会合同流体工学会議2011>

米国機械学会では毎年夏にFluid Engineering Divisionの会議が行われます。そのうち3年に一度は、日米の機械学会合同で開催することになっており、これまでは米国の西海岸の都市を中心に開催されてきました。本年は韓国の機械学会と3学会合同の会議(ASME-JSME-KSME Joint Fluids Engineering Conference 2011)が2011年7月24-29日に浜松で開催されます。既に講演申込みの締め切りは過ぎておりますが、本分科会とも関連するセッションがいくつかありますのでご紹介いたします。(S04) 11th International Symposium on Numerical Methods for Multiphase Flow, (S09) 12th International Symposium on Liquid-Solid Flows, (S10) 12th International Symposium on Gas-Liquid Two-Phase Flows, (S11) Symposium on Non-Invasive Measurements in Single and Multiphase Flows, (S12) 13th International Symposium on Gas-Particle Flows, (F02) Open Forum on Multiphase Flows: Work in Progress, (F03) 46th Cavitation and Multiphase Flow Forum

詳細は以下のホームページをご参照ください。

<http://www.ajk2011-fed.org/>

（埼玉大学・本間）

【協賛行事のご案内】

<第3回マイクロバブル・ナノバブル技術講習会>

主催：日本混相流学会、共催：化学工学会関東支部、協賛：本分科会で第3回マイクロバブル・ナノバブル技術講習会が開催されます。日時は10月26日、場所は慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎（最寄り駅：東急東横線日吉駅）です。詳細については本分科会HP（<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>）などで追ってお知らせいたします。

（日本混相流学会リエゾン専門委員長・寺坂宏一）

【入会のお勧めとホームページのご案内】

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会では新入会員を歓迎しています。会員になりますと本研究分野・技術分野に関連した様々な企画や情報がメール配信でいち早く提供されます。またニュースレターで本分科会の活動報告や関連企画などの情報が定期的に配信されます。化学工学会の正会員または学生会員であれば会費は無料です。手続きは簡単ですので、まずは是非ホームページ

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>

にアクセスして下さい。

（分科会代表・寺坂宏一）

【編集後記】

想定外の天津波とはいえ、福島原発の事故は非常にショッキングな出来事でした。一日も早く炉の安定な冷却ができ、これ以上事故が拡大しないよう祈るばかりです。化学工学が培ってきた技術や知識は、今後、大量の汚染水の処理や土壌の除染などに大いに生かされると考えていますが、これら技術の基礎である気泡・液滴・微粒子分散工学が特に注目されるのは間違いないと思います。

さて、春の学会の中止に伴い総会およびサロンが中止となりましたので、今回のニュースレターの記事は写真もなく寂しい紙面となりましたが、次回はMMPEの記事も加え賑やかなニュースレターになるようにしたいと思っております。会員の皆様のご寄稿、ご協力のほどよろしくお祈りいたします。

（ニュースレター編集担当・本間俊司）